

昭和16年5月1日（木）

晴天。午後より、切手類を受取りに中津局行き。此の日、五拾円国債一枚残り、石井太氏に頼み受取り貰ふ。冷氣依然。夕方は不相変、行火に火を取る。十時寢床。諸報告物、大概片付く。

昭和16年5月2日（金）

晴れ、後曇り。午後より暖かくなる。野口さん方、活動行き。伊勢さんも行きしらし。甘藷食べ終わり、夕食より普通御飯頂く。切手、午後零時二十分より受取に行く。島澤旅館五百円国債引き取り呉る。道子より葉書。腎臓大分快くなりたる由。甚十郎氏より五円母堂に送付越せり。夜、夏蜜柑頂く。此の日行火とらず。頗る暖かにして、夕食時流汗を呈す。道子より葉書あり。敏子より書面。甚十郎氏より五円母堂に送付越し。杉田さん退職の模様。腎臓は快方に向かいつつある由。

昭和16年5月3日（土）

午前中曇り。朝八時頃より降雨、大降りとなる。切手請求なし。夕方小歇む、夜に入り再び降り続く。資金請求に余行く。公衆待ち居る向かいの靴屋、赤坊の初幟祝いに饅頭配布。夜四つ頂く。一ヶ7銭、隣組に全部配布せしものの如し。夜組員集合。祝品贈呈に付き、協議する由にて出席（但し局は多忙、夜出席に及ばずとあり）慫慂あり。後にて聞きし所に依れば、話は纏まらざりし由。

昭和16年5月4日（日）

曇り、後恢復。夕方好天気となる。庭の水仙を移植し、ミワさんに依り、種子物商より求め来たりしを、播種す。

道子より手紙あり。赤坊は、汽車に乗せられぬと云ふ。甚十郎氏に委託すとも云ふ。余の意見を申しやりたり。一、子供は引き取ること。二、其の為、余上京すること。三、澄子学費は、余毎月送金すること。四、今まで三人にて何とか暮らし得たる故、御前が福岡に行っても暮らせぬ筈はないと思うが、不足なら幾らでも送るから、他人の補助は受けぬこと。五、職業婦人にならぬもよし。赤坊の養育に全力を竭くすこと。以上の意味を箇条書きとして通知せり。夕食に味御飯を拵える。打ち豆す。其の内幾分を味飯に入れたり。五時夕食。二階にも遣りたり。頃日夜になると睡し。

昭和16年5月5日（月）

曇り。午前中、陽の射すことありしも、午後より本曇り。税務署へ報告を済ます。道子より、措置に対し具体的に余の意見を徴し来れり（以上四日重複す）。打ち豆す。

昨夜の味飯を頂く。ミワさんトマト、及び茄子苗求め来らる。移植す。一時より神様行き。切手請求。葉書なく、ミワさん受取りに行かる。四銭と五厘は売り切れ。ミワさんの神様行きは、信者の一人より招待あり。朝詣りの連中を特に招待せしものの由。信者と云ふは、武蔵屋本店に女工として通勤し、毎朝長男の嫁と金光教会に参詣し居る由。教会の先生をも招待。赤飯、饅頭、最中、蛤しるこ等、色々土産持販られ、夕飯の際頂く。

昭和16年5月6日（火）

曇天、後雨模様とあり。午後より切手類受取り来る。雨は降らざりし。五時三十分、ミワさん等風呂行き。昨夜

来、暖気加わり、蒲団多過ぎしか汗かく。今日も暖かく、時に流汗。森田さん鶏雛三羽10求め、飼育。併も夜は湯暖房を以て保温に意を須（もち）いらる。十一時寢床。頃日、大凡（おおよそ）十時を過ぎて寝る。

昭和16年5月7日（水）

晴れ、朝の間は多少冷ゆ。切手請求。葉書なし。午後ミワさん行かる。債券残りを売り捌きに出掛けらる。今朝神前にて、一枚売れたりとて縁起を擔がる。それでも此の日、三四枚捌けたり。森田さん等着物の反物、裏の呉服屋より求めらる。今朝三時半起床。多少早過ぎたり。其の結果か、頗る睡し。夏蜜柑一ヶ持参さる。野口さん等外出。八時頃帰る。銀ブラならぬ足に任せて歩き廻り、駅待合室にて休息し、雛鶏の淋しがり居たるを慮（おもんばか）り帰り来れる由。温度一般上昇の態。十時寢床。

昭和16年5月8日（木）

晴れ、午後より次第に雲多くなる。保険申込あり。一口加入あり。昨日ミワさん数回訪ね、其の都度不在なりしもの。上原主事さん、同人宅にて四口募集し去れりとあり。局報に依れば、後藤寺の川崎勲氏従軍したらしく、中津局松本辰之助書記、五級棒依願免、本官清瀬氏書記に昇進せり。今夜食うどん頂く。朝夕は多少冷気を感じしも、日中は寧ろ暑し。夕食時に流汗す。ミワさん風邪薬服用、早く寢床。夜中、発汗ありしと。

昭和16年5月9日（金）

朝晴れ、次第に雲増し来たり。十一時頃、既に雨模様なり。五時半より髭剃り。ミワさん五時半より神様に行かる。

発汗多量により熱発緩和。前夜38度7分。幸に起き上がられて安神せり。九時五十分、森田さんと一緒に中津局行き。関満支、小包取扱上に関する講習会に参加す。大部分、既に参集しあり。十時二十分開会。逓信局より有馬書記臨席。正午まで講義を聴き、森田さんを措いて帰る。二時頃より降雨す。余迎えに行く。恰度終了。そろそろと下に降りてくるに会す。森田さん、西牟田氏に伴われて降りて来る。余、和傘を指しかけて一緒に帰局。今日、市の招魂祭。朝早く煙花打揚げ、各戸国旗を樹つ。夜母堂の実母の命日、三時半より読経。饅頭等局員に頒配せしむ。四時頃道子、甚十郎氏より書面あり。来月十日頃、上京を要望し来る。夜、雨甚だし。

昭和16年5月10日（土）

午前中曇り。早朝まで降雨。道路紙屑を除去、掃除せず。午後より全く霽れ。羊羹三本、小麦粉200匁、重箱に入れ、毒ダミと共に風呂敷に包み、午後一時発。午後五時着。誰か客が来る。大分女学校出身の友達と云ふ。二階から下に降りて見れば、其の人なし。久子は、余が来ることを確認し居らざりし如し。気温上昇、蚊が二三匹居る。久子、隣組常会に京子さんと行き、十時頃帰宅。余十時寢床。

昭和16年5月11日（日）

旧暦十五日。夜半より降雨。午前中曇天、午後より霽れ。四時頃より快晴となる。夜に至り、豆潰しす。月清し。大掃除を近所で初めてる向きあり。

昭和16年5月12日（月）

認印忘れて来た為、久子に電報を依頼す。曇り。皇后陛下関西行幸。記念消印の為、葉書を一枚ずつ挿入する袋は、中津にて出発前作製せしが、之が発送方に付き考想を練る。道子に手紙書く。小包久子発送。森永より半額位にて求め居る。此等菓子類を、澄子に慰問せしめんとて、久子に注意せし結果、送ることになりしもの。

昭和16年5月13日（火）

黎明と共に雨歇み、曇天となり、午後より快晴となる。冷氣強し。久子、蚊燻（いぶ）しかけ、二階に追い込みし感あり。蚊多くして安眠不出来。此日、記念消印の為、京都以下四局、陛下御立寄りの各局に発送す。年金も六円一口、三円一口と共に久子に受取らしむ。

昭和16年5月14日（水）

頗る冷え、綿入れ取り出す。午後より暖かになる。事務服は七円、仕立賃かかる。久子に三円五十銭、立替分支払ふ。今朝ミワさん手紙。昨年まで、納税は巖方にて支払ひたるも、今年は単独にて令状を発送されるとか、税務署より電話ありしと。午後零時半、外出。電車券6銭求め、松屋に至り、二階の既製品売場に事務服を漁る。6, 5円分一着よりありし。併も褪色甚だし。店員に幾らか安くなるだろうと尋ねたるに、何れにか相談に行き、六円にすると云ふ。余は外の品物をと選択するも、夫れ以上の品なし。安い分には四円五円と云ふものあり。色が気に合わぬ故、岩田屋に至り、国防色にて地質は松屋のと同じく、矢張り6, 5円と称す。二着求め帰る。木村屋パン、殆ど売切れ。市場にてもパンは皆無なり。どう

して斯くも人気あるにや。四時近く帰宅。椎茸、鰻、蓮根等を入れた味御飯頂く。午前中日向ぼこりす。猶、松屋の品物を値引きしたと云ふことは、一面から見れば、適正の値段を示して居らざりしことを表明するものにして、信用上、遺憾と思料、注意す。

昭和16年5月15日（木）

薄雲かかり割合に冷ゆ。昨夜は窓開放、蚊帳は吊らざりし。九時頃より大掃除、畳を表に取り出す。久子は市場に行き、帰りて畳を家に入る。余は二階を整理。昨ハタキ13を求め来れるが、大いに役立つ。十一時半終了。便所の掃除を公然とやる。午後より須藤義樹氏、美和さん葉書やる。腹具合悪く、四時頃再び便所に行く。幾らか不消化物の食べ過ぎとも被認。夕飯素麺。

昭和16年5月16日（金）

午前中晴れ、後曇り。午後は降雨。久子外出、一時過ぎ販る。キャラメル安くするからとて1, 50やる。夕方、買ひに行く筈。七時頃、雨を衝いて行き、九時頃販る。二円余の品を一円にて貰ひ来る。一円に相当する位を貰ひ、余りは来月姉さんへの土産にしたらと申し含め、半分は久子に遣る。これにて余の土産も出来たわけ。階下にて久子より頒け前を貰つて、二階に上がり、寝に就く。冷氣変わらず。蒲団掛ける。

昭和16年5月17日（土）

昨夜半、熱くなり蚊出づ。蒲団を剥ぎ、寝巻のみにて過ごす。雨は歇みし如し。朝三時四十分起床。雨再び降り初めたるも、黎明と共に歇み、其の後、曇天の儘断続。

道子、ミワさんより手紙。道子には返事を遣る。大掃除、畳を乾かさぬので乾かさぬと答ひたら、施行済みの札を呉れなかった。向かいの静江さんは、全然掃除せぬのを畳を乾かしたと云つて、済みの札を貰った。世の中のことは、馬鹿正直は馬鹿を見、社会の落伍者となると云ふに対し、人を欺きつつ一時を騙（かた）り得るとも、喜びの生活ではあり得ない。夫れは自己の良心を欺き得ぬからである。更に貢が転向せぬなら断然やめる。私は涙を呑んだ「転向せぬなら、私の真心で転向させてお目にかける」。斯くてこそ、他人をも感奮興起せしむ云々。午後より禪洗ふ。

昭和16年5月18日（日）

此の朝、光友会水鏡天満宮掃除の日。余不行。午前中剃刀研ぎ、午後理髪髭剃り。三時夕食を済まして仕度をし、四時過ぎ出発。黒夏服着用。此日、午後二時より別府局に於いて、無集配局長集合。待遇問題等、懇談協議したき旨照会。別府竹瓦局長より来たり。ミワさん廻送越しあり。右に対し、欠席の旨電報せり45。駅に至り、別府までの切符280求め、準急にて小倉に至り、一時間半待つ。此の間、英霊出迎えの為、婦人会員等多数堵列。駅前広場厳粛なり。到着は一名分なりし。皆脱帽して、敬弔の意を表す。八時着。晴天。

昭和16年5月19日（月）

晴れ。五時四十五分発にて別府行き。一時間の余裕あり。九時十五分開会。南北合流。本年は宴会を廃し、其の代わり、昼飯を会にて負担。午前中諮問案は、南部会長議長席に、午後は北部会長、之に当たる。最後の協議

案に集配、無集配分離の件を種々の角度より討議。六時までかかる。急行に間に合ふ。175にて七時五十分到着。夕飯を炊かせなどし、頗る気の毒をかけた。午後十時寝床。

昭和16年5月20日（火）

晴れ。午前五時四十五分発、前日の如し。諮問案答申。九時三十分より、海軍大佐某氏の講演。次いで十一時四十分、折柄、村田逋信大臣に扈從（こじゅう）し、下関に行かれし逋信局長の訓示あり。写真を撮影。零時三十分昼飯。一時三十分より映画。余は二時三十七分発列車に間に合ふべく、映画を見ず出発。羊羹、柚（ゆず）二本60、黒二本43求め帰宅。50饅頭土産に、局員に遣る。福岡行きの土産は、キャラメルケーキ、コンブケーキを分配す。

昭和16年5月21日（水）

晴れ、夏らしき気温となる。中津局にて国債消化に関し、協調の上、善処方逋信局より来牒により、午後一時半より、市内各局及び大貞駅前各局、召集に付き出席。局長室にて、竹折主事、中谷主任及び上原保険、共通主事等、出席協議す。無集配に指数を持たせぬことは、不可なりと、余の主張を容れ、割当数を中津局にて定め、各局に通達することになり、四時閉会。味飯、局員に分配す。道子より手紙。弁解の辞多し。来月五日、上京方申越す。魔法瓶、松本卯之助商店に注文す。

昭和16年5月22日（木）

朝六時過ぎより降雨。少し許（ばか）りにして曇りの儘。

午後切手受取に行く。木下主事、指導者講習に出張、不在。二号国債売却方、二週間ぶりに通知あり。買値より高く売れ大いに喜び居り。夕餉うどん頂く。事務交付に籤引きす。野口、森田両氏、福岡より持参の品。伊勢さん協会品。ミワさん袖丈の長い協会服に非ざれば手が隠れぬとて、籤に入らずに協会服を取らる。蚊帳吊り初む。

昭和16年5月23日（金）

快晴。切手請求、午後零時半出発。魔法瓶ミワさん探し廻り、二軒にて何れも四合入り、二本づつ現保す。三円と三円拾銭と、店に依り相違あり。東京より返事を俟ち、措置せんとす。

昭和16年5月24日（土）

曇り、降ったり歇んだりの天候。午後雷鳴。朝新聞を見て居りしに、通常為替払渡し停止の請求あり。急ぎて仕事服に着換えて出局。電報にて請求申出あり。中津劇場にて芝居のビラ来たり。旧劇とて食指動きしものの如し。母と相談、観に行きたしと云ふ。余賛意を表せり。夜に入り、雷鳴可なり猛烈。雨甚だし。

昭和16年5月25日（日）

四時頃豪雨。五時半頃より次第に収まる。局内の無烟炭箱、裏に持込む。朝、便所掃除し、硝子を綺麗に磨く。三時夕食を済まして、母堂等中津劇場に行かる。割引券ビラ下分を訪ね、二札を得て持行かる。二等70、一等1,07。野口氏等、午前中活動行き。六時過ぎ販る。毛筆三本35求め来たり。関東州、満州、中華民国の送金制限の改正告示、掲出用の為。八時近く退局。ラジオを聴

く。十時近く母堂販らる。観客の大部分は老人。就中、女のみ敬老会云々と、笑ひ居らる。

昭和16年5月26日（月）

朝の間降らず。八時を過ぐる頃より降り出し、夕方迄降り続く。葉書八千持ち来たり、豊浦売捌き所に七千二百枚遣る。更に二時頃、資金請求に行く。此の頃、雨甚だし。竹折主事の席にて少時咄す。夕方全く歇む。今日裏の島沢より、小豆があるから分与差し支えなき由、言伝（ことづて）あり。曩に糯米四升五合弱、求めし例あり。今日道子より手紙。余の差出した葉書と行違いとなりしもの。母堂の傍らにて、足袋を繕（つくろ）ふ。

昭和16年5月27日（火）

四時、雨次第に歇みたり。午後より中津局に切手受領の為、出掛く。局長が行くに、猶代理者の印章を必要とし、形式を尊ひつつあり。奥家さんより電話かかる。木下主事と研究。給料着。夫々分配す。松本卯三郎商店より、虎印魔法瓶3、30到着に付き、四円（荷造り費加算）発送す。

昭和16年5月28日（水）

快晴。九時半出勤。昨給料交付、今日貯金組み入れ。臨時者は一年以上になれば、共済組合員に加入せしむるべき旨、通牒あり。切手請求なき為、外出せず。魔法瓶、昨夜八時湯を入れ試験す。大体二十四時間には、大分冷めたるも、其の湯たる熱さは保たれあるを見る。ミワさんより、改氏方頻りに要求あり。

昭和16年5月29日（木）

快晴。ミワさん四月一日付き、事務員採用。共済組合に加入方報告す。夜に至り、眼鏡の蔓による耳の傷に刺戟され、セルロイドに改むることとなり、武田眼鏡店に至り、140にて入れ換えて貰ふ。同時にミワさんの銅蔓も、ニッケルに入れ換えて貰ふ。此の方は70銭と云ふ。ロイドの方はレンズに堪（こた）えて伸縮せしめ得たるも、ニッケルの方はレンズを器械にて磨縮して匡正せしめねばならず、大分時間を要せり。余のロイドは、大意張りにて外出が出来ることとなれり。

昭和16年5月30日（金）

快晴。切手請求に午後より出掛く。流汗滴（したた）りたり。戸外は全く夏らしき陽射しとなれり。猶、朝夕は涼し。道子よりミワさんへ鏡台送るかとあり。不要の品物は売却の意向らし。

昭和16年5月31日（土）

森田さん幸袋へ販ることになり、雛三匹、鉄道に頼む。羊羹五本求め来られ、三本森田さんに遣る。両親今回、庄司より幸袋に移転されたる由。中殿、今吉実造方に電為150持ち行き交付せり。二度来局、現金なく待たせたるものの由。資金請求して支払を了す。正午過ぎ、貯金70円預入方申し出づ。余、受入れ呉る。出井さん振替預入の給与金も、二期分通帳に登記交付せり。可なり蒸し暑し。野口さん、伊勢さんと永江貞さんを訪ふ。